

継続的な生産力強化により 売上高200億円体制の構築へ サステナブル経営の 推進にも注力

■ 中期経営計画初年度を振り返って

新型コロナウイルスの感染拡大から丸三年が経ち、ようやく日常を取り戻しつつあります。当社では、新型コロナウイルスの発生直後から、サプライチェーンの混乱を予測して部材の確保に努めたことで、2020年度と2021年度は、その影響を最小限に食い留めました。しかし2022年度は、電子部品の供給回復の遅れなどから生産が滞る状況となり、業績にも大きな影響を与えました。それでも、部品の入荷が始まった年度末には、全社の努力で生産を挽回し増収を確保。2023年度は新規受注をさらに積み上げ、中期経営計画の成長路線に戻しますが、部材や電気料金などの経費上昇もあり、利益の確保には一層の注力が必要です。

■ 生産力強化を継続し、売上高200億円を目指す

コロナ禍での混乱にも打ち勝てた要因は、前の中期経営計画から「モノづくり回帰」を目指し、強固な生産体制を築き上げてきたことにあります。部材調達の長納期化の影響で、当社製品は通常より生産納期が長くなっているにもかかわらず、2022年度は過去最高の受注を得ることができました。2023年度は他社に先駆けて生産納期を復活させるため、一層の生産体制強化を図ることです。さらなる受注を呼び込み、早期に売上高200億円体制を築き上げてまいります。

■ 国内では、開発費を増やし、新たな市場に挑戦

世界中で脱炭素化社会を目指す機運が急速に高まっています。水素やアンモニア、メタンなどをエネルギーに活用するための新たなプラント建設が計画されているほか、食料の安定確保のための陸上養殖は、研究段階から商業プラントへと大型化が進んでいます。こうした新市場向けに開発費を大幅に増やし、ニーズに即した製品のスピーディな供給を目指します。

■ 東南アジアでのビジネス深化など海外展開を推進

海外では、中国に次ぐ安定した売上が確保できる市場として東南アジアやインドでの事業展開に注力していきます。東南アジアで



代表取締役社長

高橋 俊夫

は、業務提携しているハック社と協働し、当社ブランドをさらに浸透させるなど事業を深化させ、売上げ増を目指します。インドでは、数年前に参入した環境大気測定装置の拡販のほか、環境水質計については販売代理店の強化など新たな施策を展開していきます。また、大手半導体企業の生産拠点を分散化に合わせ、チャネル整備を進めてしっかりと各社の設備投資を獲得します。

■ サステナビリティ活動への積極的な取り組み

当社は、「持続可能な社会の実現」と「グループの持続的な成長」の両立を目指してESG経営を実践していますが、2023年3月に「サステナビリティ基本方針」を策定し、「経営方針」と並ぶ重要な方針と位置付けました（P5～6参照）。この基本方針を実行する「サステナビリティ委員会」は、下部組織として「気候変動・脱炭素対応分科会」「人的資本経営推進分科会」を含む4つの作業部会があり、重要テーマについてスピード感をもって取り組みます。

■ 次のステージに向けて飛躍する一年に

中期経営計画の目玉である、新生産棟の建設とDXプロジェクトの推進は順調です。完成後に成果が現れるまでは、投資のみが先行し、利益面では厳しい年となりますが、未来の大きな成長につなげるべく、実行してまいります。2023年度は、グループ会社の岩手東亜DKKとバイオニクス機器の創立50周年に当たります。この記念すべき年を、次のステージに向けて飛躍する一年にしたいと思います。

グローバルで増加する計測ニーズにお応えする東亜ディーケーケー



あらゆる分野の水質管理をサポート

海・河川・湖沼から上水／下水処理まで水に関するあらゆる場面で、水質管理や汚染防止に貢献



大気さまざまな物質を測定

PM2.5をはじめ、工場や自動車、家庭などから発生するさまざまな大気の汚染物質を監視



医療施設に信頼性の高い製品を提供

長年培ったセンサー技術・エレクトロニクス技術で透析治療を支援



有毒ガスの漏えいを見張って知らせる

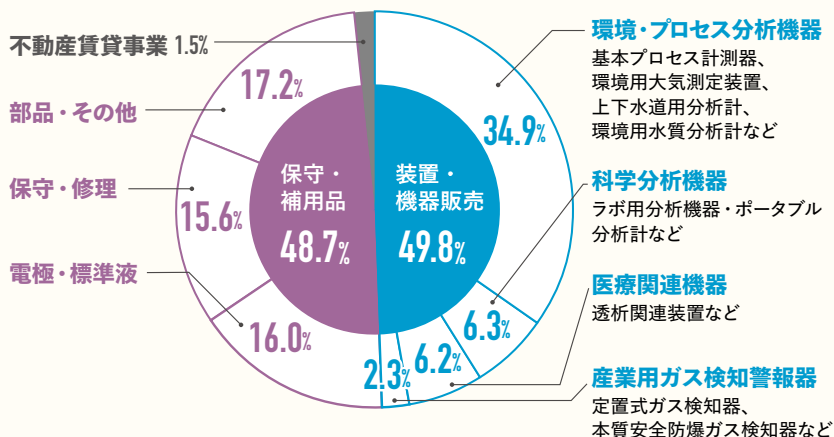
化学プラントなどで発生する有毒ガスの漏えいを検知・警報し、作業現場の安全に寄与

東亜ディーケーケーの事業

当社は総合計測機器メーカーとして、環境計測から化学分析まで幅広い分野で人々の暮らしを支えています。

計測機器事業の装置・機器販売の比率は売上全体の50%となっています。そして、これら計測機器の消耗品・部品販売や保守・修理などのアフタービジネスが49%を占めており、当社の安定した業績を支えています。

分野別売上高構成比（2022年度（連結））



祝

2022年度日本分析化学会先端分析技術賞・JAIMA機器開発賞受賞
「生物発光式エンドトキシン検出装置」(P4参照) 開発メンバーに聞く

開発メンバー全員が知恵を絞り、誰でも簡単に、迅速で高感度かつ正確な測定が可能に

生化学事業室生化学企画課 課長 八幡 悟史



迅速なエンドトキシン測定を可能した生物発光法

エンドトキシンは、血液に混入すると発熱などを引き起こす物質です。透析治療では測定が必須ですが、従来法では測定に30～90分以上も要します。そこで時間短縮のために、ホタルなどの発光を助けるルシフェラーゼという酵素に着目しました。ホタルの10倍以上光るルシフェラーゼと、これを用いた測定技術を開発されたのが、今回ともに受賞した広島大学の黒田章夫教授です。当社は透析液の溶解装置を手掛けていることから、黒田教授と共同で製品開発をスタート。当社独自の技術で改良を加え、測定時間10～20分と、迅速化に成功しました。

知恵を出し合い、煩雑な操作なしで簡単に使える製品に

製品化の過程では、煩雑な操作の簡便化に苦労しました。開発メンバー全員でアイデアを出し合って試行錯誤を繰り返した結果、凍結乾燥した試薬とサンプルをセットするだけで、決められたタイミングで装置が試薬を混合し、測定できる試薬キットと装置が完成。誰でも簡単に、高感度かつ正確な測定が行えます。

「発光」技術を、未来につながる製品づくりに活かしたい

本製品は、すでに多くの透析病院や研究機関などでご使用いただいております。お客さま

に喜んでいただけることが大きなやりがいです。今後ももっと使いやすく、ご要望を満たす装置を開発したい。また将来は、当社の発光技術を進展させ、たとえば病気になる前に異常を検知するような製品を開発し、医療や社会に貢献したいと思っています。

日本分析化学会先端分析技術賞・JAIMA機器開発賞受賞とは

先端的分析技術開発や実用化において、優秀な業績を示した個人あるいはグループに対して贈られる賞。今回は「生物発光式エンドトキシン検出装置の開発」で、広島大学大学院統合生命科学研究科の黒田章夫教授と当社社員6名の計7名が受賞。

経営理念

『誠実・創造・挑戦』をモットーに
地球環境保全と豊かで人にやさしい
社会環境の実現に貢献します

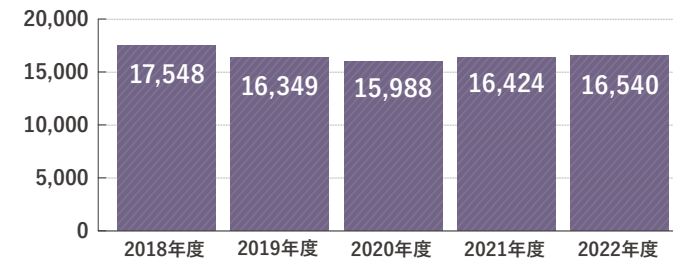
会社概要

社名	東亜ディーケーケー株式会社（英文名 DKK-TOA CORPORATION）
創立	1944年9月19日
資本金	18億4,248万1千円
上場取引所	東京証券取引所 スタンダード市場（証券コード：6848）
本社	〒169-8648 東京都新宿区高田馬場一丁目29番10号
従業員数	378名（連結569名）（2023年3月31日現在）
事業内容	- 計測機器および医療関連機器の製造、販売 - 計測機器の部品・消耗品の販売 - 計測機器のメンテナンス・修理 - 不動産賃貸事業
事業所	狭山テクニカルセンター・開発研究センター 医療関連機器生産棟（埼玉県狭山市） 東京エンジニアリングセンター（東京都東和市）
グループ会社	山形東亜DKK（株） 岩手東亜DKK（株） バイオニクス機器（株） 東亜DKKサービス（株）

業績推移（連結）

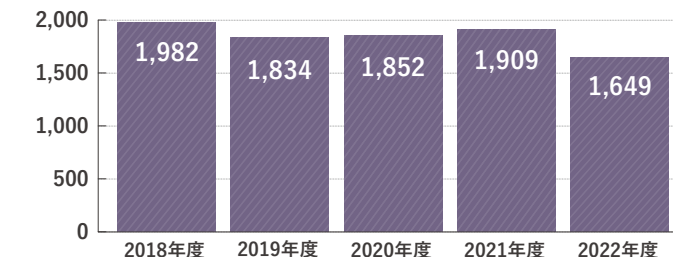
●売上高

（百万円）



●営業利益

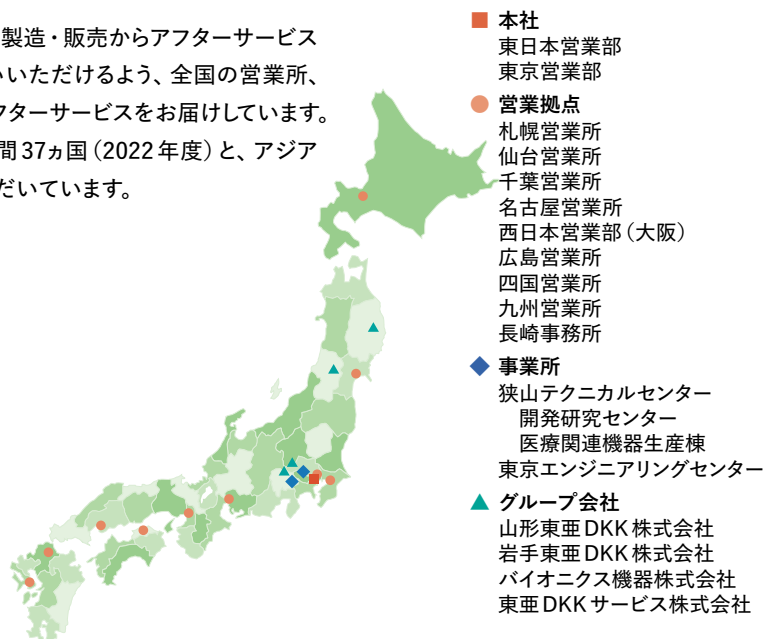
（百万円）



国内ネットワークとグローバル展開

国内ではお客さまのご要望に迅速・確実にお応えするため、開発・製造・販売からアフターサービスまで一貫体制を確立しています。当社の製品を安心して長くお使いいただけるよう、全国の営業所、技術サービスセンター、関連サービス会社を通じて、きめ細かなアフターサービスをお届けしています。また海外販売代理店は17ヵ国に31社ありますが、販売実績は年間37ヵ国（2022年度）と、アジアだけでなくヨーロッパ、北米・南米など多くの国からご注文をいただいています。

■海外代理店



レポート概要

編集方針

「サステナビリティレポート2023」は、東亜ディーケーケーグループのサステナビリティについての考え方や活動状況をできる限りわかりやすくお伝えするものです。ESG（環境・社会・ガバナンス）に関する網羅的な情報を掲載しています。2013年から発行していた「環境・CSRレポート」を、2023年3月のサステナビリティ基本方針策定を機に、「サステナビリティレポート」に改称し発行しています。本レポートをステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションツールの一つとして活用し、皆さまのご意見を参考にしながら、今後も改善を図っていきます。

報告範囲

対象期間	2022年度 （2022年4月1日～2023年3月31日） 一部この前後期間の活動・情報も含まれます。
対象組織	東亜ディーケーケーおよびグループ会社 ※事象に応じて報告対象組織が変わる場合は個別に表記しています。
発行時期	2023年6月
発行責任者	経営戦略部長

東亜ディーケーケーは、豊かな社会と環境保全に寄与する 「安全・安心」な計測機器をご提供しています

水 ポータブル水質計 P40シリーズ マイラナ

フィールド測定に適したマルチ水質計・
全3機種をラインアップ
pHや電気伝導率などプローブ情報を自動で識別
できるデジタルプローブを採用。スリムなデザインで
操作性も向上しました。



水 卓上型水質計 Xシリーズ

大型タッチパネル搭載で視認性・
操作性を向上させたラボ用分析計
主力機種の卓上型水質計。大型カラータッチ
パネルの搭載により視認性・操作性・
メンテナンス性が向上し、使いやすさ
にも配慮しました。



水 残留塩素計 CL17sc型

水道水などの残留塩素濃度を
測定する水質計
当社が日本国内総代理店として
販売しているハック(HACH)製品。
低コスト、低メンテナンスで測定
でき、迅速性と信頼性も確保して
います。



水 水道水用水質自動測定装置 MWB4-72型

安全でおいしい飲料水の供給に
貢献する水質計(災害時にも対応)
公園など公共の場に
設置され、飲料水の
水質7項目を連続して
監視。バッテリーとの
組み合わせで停電時
でも72時間の測定が
可能です。



大気 微小粒子状物質測定装置 FPM-377C型

PM2.5を連続的に監視する
大気汚染分析計
肺の奥まで入り込み、健康に
悪影響を及ぼすPM2.5。本装置は
PM2.5を連続的に監視し、人々
の健康維持に貢献しています。



大気 大気中オゾン測定装置 GUX-353B型

紫外線吸収方式により、
大気中の微量のオゾン
濃度を連続測定
健康被害を引き起こす光
化学スモッグの原因となる
オゾン进行正確かつ安定して
連続測定する装置です。



ガス 排ガス中塩化水素測定装置 GNC-224-1型

ゴミ焼却施設などの
排ガス中の塩化水素ガス濃度を
監視する分析計
プラスチック類などのゴミ
焼却施設などで、設備の
腐食を招き、有害なダイオ
キシンの発生源となる塩化
水素ガス濃度を監視してい
ます。



医療 人工腎臓用粉末型透析用剤溶解装置 A剤溶解装置 AHI-701型 B剤溶解装置 BHI-701型

粉末で供給される透析剤を溶解し
適切な濃度に調整する溶解装置
当社の電気伝導率測定技
術を駆使して安定した透析
液濃度の調整を行ってい
ます。全国の透析施設で
透析治療を支えています。



医療 生物発光式エンドトキシン計 ルミニッツシリーズ

透析用水、透析液の
エンドトキシン活性値を測定
透析液中のエンドトキシン活性値を測定する装置・
試薬・ソフトの組み合わせ。生物発光法を用いた
試薬により、迅速・精確に測定します。



INDEX

トップメッセージ	1	従業員(働きがいのある職場づくり)	13
会社情報・レポート概要	3	従業員(労働安全衛生・健康)	15
製品紹介	4	株主・投資家の皆さま	16
ESG経営の推進	5	地域・社会	17
環境	6	地域(グループ会社)	18
お客さま(品質・サービス)	11	コーポレートガバナンス	19
お取引先さま(調達・物流)	12	コンプライアンス	21
		リスク管理	22